◉健康寿命の延伸、生きがい・仲間づくり、地域交流の活性化◉

地域課題を知る

人生 100 年時代。医学の進歩や生活環境の変化で寿命は延びる一方、健康に自立して暮らせる「健康寿命」は伸び悩み、寝たきりや介護を必要として暮らす期間が長くなってきていきます。近年、身体機能の低下は交流減少から起こりうると言われるほど、地域交流が重要視される一方で、様々な要因により交流の機会は減少しています。中山間地域の当市では、歩いて行ける範囲で交流する機会が求められていますが、つながりが強い自治会などを単位とした集いや、生活環境の変化から地域内交流のみならず趣味など仲間で集まる機会の創出が求められています。

健康への影響

※健康寿命は自分の努力無くして伸ばせません

身体を動かす機会

※健康づくりは１人より仲間と行うほうが継続します

交流の場までの移動

※身体状況や免許返納による移動困難

趣味でつながりたい

※個々に趣味があるのに趣味で交流する場が…

どう解決する!?

住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるために、
生きがいづくりや仲間づくりとなる地域の集いを活性化します。

生きがいや仲間づくり、健康寿命の延伸を目的とした「集いの場」の創出

小学校区や自治会、身近な範囲や趣味活動。子どもからお年寄りまで、誰もが取り組みやすく、継続しやすい「集いの場」を創出しています。具体的には以下のような集いの場を推進しています。

◉ラジオ体操の会：近隣でも自治会単位でも、いつも集まる場所でも。どこでも気軽に交流と健康づくり
◉自治会などでのサロン活動：公民館などで定期的にゲームや健康体操などに取り組みます
◉趣味の集い：個々の趣味を通じた健康促進や新たなつながりづくり

各種集いの場を支援することで、継続的な取り組みを目指しています。各種支援事業には社協会費や赤い羽根共同募金が活用されています。

◉貸出用送迎車両や備品(テーブルゲームやレク用品、健康器具など)の整備 ◉団体同士の情報交換会開催
◉活動に対する助成(会場使用料や備品など) ◉健康体操冊子の作成 ◉集いや交流の体験会・研修会、モデル開催の実施

困った時はお互いさま！支えあい・助けあえる地域へ

地域課題を知る

「困った時はお互い様」。生活の中でちょっと助けてほしい時や、災害発生時などのいざというとき。地域や身近な人の支えは私たちの生活にとって欠かせないものです。以前、高齢者を対象に実施したアンケートでも、「困った場合に誰に支援してもらいたいか」の問いに対し、家族に次いで多かった返答が「知人や隣近所、地域の人」でした。逆に「助けて」と言われたら自分に出来ることは手伝いたいと答えらえた方は全体の８割以上でした。活動を求める声と活動したいという想いをつなぐ機能が必要です。

ちょっとした困りごと？

※掃除や電球交換、買い物など
生活上の大きな困りごとに…

どこに相談したら

※困った時に気軽に相談しにくい
誰を頼ったら…

できることはやるのに！

※自分にできることなら手伝うけど
どこにどんな困りごとが？

どう解決する!?

ちょっとした生活の困りごとを地域の力で支えあえるよう、
「困りごと」と担い手をつなぐ機能を強化します。

ボランティアセンター運営（担い手の養成や発掘、活動の支援、調整）

地域役員や関係機関との連携により地域や生活課題を把握します。また「自分のできることで地域に貢献したい」そのあたたかい想いを活動に繋げるため、講座やスキルアップ研修の開催などを通じ「担い手」を把握し、“困りごと”と“活動”をつなぐ橋渡しをします。またその他各種ボランティア活動の支援も行います。近年では新たに次のような活動が生まれ、地域を支えています！

◉生活支援ボランティア(大掃除や引っ越し、話し相手、院内受診付き添い支援など)
◉集いの場・買い物ツアー送迎ボランティア　など　　※令和６年度は 100 件程度のコーディネートを実施しました。

各地域での環境整備や交流促進・見守り活動や読み聞かせやリサイクル、障がい者支援など、下呂市内には様々なボランティア活動があり、社協会費や赤い羽根共同募金を活用し、以下のようなボランティア活動推進を実施しています。

◉担い手養成講座 ◉スキルアップ研修会や情報交換会の開催 ◉活動の周知・啓発
◉活動に必要な備品などに対する助成 ◉「困りごと」と「活動」の調整

◉福祉を学ぶ・知る・ふれる機会の創出◉

地域課題を知る

みんなが安心して暮らしていくためには、自助（自分自身や家族での取り組み）、近助や共助（隣近所や自治会・団体など地域で互いに助け合う取り組み）、公助（行政などの公的サービス）の役割分担が必要不可欠です。しかし、サービスが充実する一方で、自助・共助の精神の薄れが課題としてあげられます。また、障がいや個々の悩みなどに対しての偏見などから生きづらさを感じている方もみえます。誰しもが支えや支援などを必要とする状態になる可能性があり、互いに理解し共に生きる社会が必要です。そして、人口減少に伴い、福祉を担う人材も専門職・地域役員共に減少し続ける中、一人ひとりが意識し取り組むことが重要で、様々な場面で福祉を学び、知り、ふれる機会の創出が必要です。

生きづらさ

※偏見や差別・疎外で生きづらさを抱えている人も

福祉理解の普及

※正しい認識がないことで生活に困る人がいます

担い手不足

※１人 10 役よりも 10 人で分け合う地域へ

情報の収集

※介護が必要になった時、困った時、どこに相談する？

どう解決する!?

学校や地域、企業などと連携し、福祉を学ぶ・知る・ふれる機会を創出し、福祉への関心や担い手の拡充を目指します。

学校や地域で福祉に触れる・考える機会（福祉教育や福祉講演会の開催）

市内の学校と連携し、学校教育や地域住民との交流などの機会を創出しています。また、福祉の必要性を感じていただけるよう、定期的に講演会を開催しています。R5 年度は佐野有美さんによる「私の挑戦～挑戦は成長の種～」を開催。その他、地域や企業でも福祉を学ぶ機会を創出しています。

住民福祉活動を拡げる機会

下呂市合併 20 周年。近年では様々な新しい活動を住民の皆さんと共に創出してきました。そうした実践事例を傍聴できる機会を創出します。R6 年度は、住民福祉活動事例発表「地域福祉フォーラム in 下呂」を開催しました。

広報誌やチラシの発行・ホームページの運用

福祉への関心拡大と福祉情報の収集を目的に、定期的な広報誌発行やホームページ運用を実施しています。

社協会費や赤い羽根共同募金は以下のように活用されています。

◉学校や地域で行う福祉教育に対する助成 ◉広報誌の発行 ◉各種福祉情報啓発チラシの発行

◉福祉講演会の開催 ◉ホームページの運用

◉多種多様になる生活課題に対応する仕組み◉

地域課題を知る

少子高齢化、核家族化などから世帯環境、生活環境が大きく変容する現在、それぞれが抱える課題は多種多様となってきています。各種課題に沿って福祉や介護のサービスも発展してきていますが、制度やサービスだけではカバーしきれない課題も多くあります。介護や支援が必要となっても「住み慣れた地域で安心して暮らし続けたい」その願いをかなえるために、生活課題に沿った取り組みが必要です。また、在宅生活を支える各種サービスの啓発なども求められています。

車椅子での外出

※車椅子での買い物や通院などの外出

急な怪我や介護

※急な怪我や介護が必要となった時、福祉用具が必要に…

生活困窮

※急な失業などにより生活困窮に…

子育て支援

※夏休みなど長期休み時に子どもだけで留守番

どう解決する!?

個々の生活課題に合わせた取り組みや事業により、
安心して暮らせる地域を目指します。

在宅生活を支える仕組み

車椅子での外出に、福祉車両を市内無償で貸し出しています。また運転手が確保できない場合は、タクシーの半額程度で利用できる移送サービス事業を行っています。また、急な介護や怪我などで一時的に福祉用具が必要となった場合に、車椅子やベッドなど福祉用具の一時貸し出し事業を実施しています。

その他生活を支える仕組み（生活困窮や子育て支援、介護者支援事業など）

コロナ禍で増加する生活困窮者世帯への継続的な相談支援及び一時的な食糧支援、小学生などが夏休みなどに安心して過ごせる社協寺子屋の開催、介護者やおひとり暮らし高齢者など当事者同士の交流会の開催など、各種在宅生活を支える事業を実施しており、社協会費や赤い羽根共同募金は以下のように活用されています。

◉福祉車両の更新・メンテナンス ◉福祉用具の整備・メンテナンス ◉生活困窮者支援事業
◉小学生夏休み社協寺子屋の開催 ◉介護者教室の開催

いつか起こるかも!?ではなくいつでも起こりえる災害に備えて!

地域課題を知る

「何年に一回」「いつか起こるかもしれない」と言われてきた災害は、今やいつ起こってもおかしくなく、当市においても近年連続して豪雨災害に見舞われています。今後も豪雨に豪雪、阿寺断層帯直下型地震などがいつ発生してもおかしくありません。

災害発生後は、泥出しや災害ゴミの搬出、住居の片付けや清掃など、様々な困りごとが発生し、多くの人の協力が必要となります。一方、近年災害ボランティアの重要性が普及したことにより、全国各地から一斉にボランティアが集まります。

過去には、1000 人の募集人数に対し、数万人のボランティアが集まり、被災地がかえって混乱してしまった事例もあります。早期復興のためには「どこで誰がどんなことに困っているのか」そして、「どれだけの支援者が必要なのか」を正しく認識し、“困りごと”と“活動”をつなぐ機能が必要不可欠です。また、いざという災害に備え、平時からの訓練や準備などが重要となります。

被災者

※家の片付け、災害ゴミ、清掃…
助けが欲しいけど誰に頼んだら…

活動者

※力になりたいけど、どこに行けばいい？
被災地が人であふれ混乱するかも。

どう解決する!?

災害発生時、被災地域が混乱することなく早期復興できるよう、
地域と連携して困りごとを把握し、活動者をつなぐ仕組みを強化します。

災害ボランティアセンター運営（被災支援、担い手の発掘、活動備品の整備）

下呂市社会福祉協議会は、平成 30 年・令和 2 年の災害発生時にセンターを立ち上げ、地域の皆さんと共同で延べ 100 件以上の被災者支援をさせていただきました。また日頃より災害を教訓とした訓練の実施や備品整備、担い手の発掘、協力体制の拡充などの取り組み、避難所への要支援者受け入れ環境の整備などを実施し、各種事業に社協会費や赤い羽根共同募金が活用されています。

◉センター運営訓練や災害ボランティア研修会の開催 ◉センター備品の整備
◉災害ボランティア事前登録・連絡システム整備 ◉避難所に要援護者を受け入れる環境整備に対する助成
◉災害ボランティアセンター啓発事業(定期的なチラシ発行や地域会合での説明など) ◉全国被災地支援